



9月3日(木)アイスホッケーアジアリーグの地元開幕戦が日光霧降アイスアリーナで行われました。今季のリーグ戦の初戦、H・C・栃木日光アイスバックス(以下、バックス)は韓国済州のデミョンサンムと対戦しました。

当日は、1,186人のファンが応援に駆けつけ、会場はバックスのチームカラーであるオレンジ色に染まりました。

バックスは第1ピリオド、F・W・ボンクがパワープレーの好機にゴールを奪い、先制点を得ました。一時、2-2に追いつかれる場面もありましたが、同ピリオド終了間際に6人攻撃からF・W・齋藤がゴールを奪い勝ち越しました。第2ピリオド、第3ピリオドもバックスの勢いは止まらず、今シーズンから新加入したD・F・河合、D・F・ウオルトン、D・F・伊藤もゴールを決めました。



H・C・栃木日光アイスバックス地元開幕戦

守備面では、10季ぶりにバックスのゴリーを務めた春名の好セーブも輝き、結果7-3と快勝し、2015-16シーズンの開幕戦を白星で飾りました。

なお、バックスは開幕戦の3連戦をすべて白星で飾り、地元のファンを大いに沸かせました。



赤ちゃんハイハイ選手権

大型連休初日の9月19日(土)、JR今市駅前で、第18回全日本赤ちゃんハイハイ選手権が開催されました。これは、「にぎわいのあるまちづくり研究会」が開催する「六斎市」で行われるイベントの一つで、家族が待つゴールに向かって進む、赤ちゃんのハイハイのスピードを競うタイムレースです。

この日は朝から晴天に恵まれ、午前・午後の部を通じて過去最高の約60名の元気な赤ちゃんたちが参加しました。会場はカメラを持った家族たちの熱気に包まれ、かなりの盛り上がりを見せていました。

家族の懸命な応援とは裏腹に、泣きじやくって座り込んでしまったり、ゴールとは逆の方向に進んでしまったりする赤ちゃんが続出。会場は笑いの渦に包まれてい



ました。

午後の部に参加し、見事優勝を収めた平ヶ崎の宮下日向ちゃんのお母さん、萌さんは、「子育て支援センターで、このイベントを知りました。出場を勧められたこともあり、今回初めて参加しました」と話してくれました。

この日の会場では、絵本の読み聞かせなどのイベントも行われ、訪れた人たちは、秋の1日を満喫していました。



今月の表紙

月あかり花回廊

「月あかり花回廊第6章」が9月25日(金)~10月4日(日)の10日間、鬼怒川公園をメイン会場に開催されました。

公園に向かう戊辰街道には、台東区との友好都市締結30周年を記念して展示された浅草燈籠会の燈籠が足を照らす中、福島の子どもの思いが書かれた「希望のあかり」が広がりました。

メイン会場では、花と光で演出されたきらびやかな「夢の泉」が入口を飾り、チェンソーカービグなどのユニークな作品が並んだ「アートの森」、藤の花をイメージした紫色のトンネル「紫藤華めぐり」、その先には和傘と竹で彩られた「和傘華浪漫」の明かりが優しく園内を照らしていました。

また、ジャズをはじめ、バイオ



リンの演奏や津軽三味線など日替わりで行われた「月あかりコンサート」や「月のおもてなし」として抹茶の無料サービス、地元のグルメを販売した「おもてなし屋台」も出店し、連日、にぎわいを見せていました。

宇都宮市から家族4人で訪れた加藤さんは「初めて来ましたが、たくさん種類の明かりに感動しました。幻想的で素敵なイベントですね。また来たいです」と話してくれました。

実行委員長の高橋真由美さんは「今年は展示物を増やし、コンサートにも幅広いジャンルの方の出演をお願いしました。そのおかげで、地元の方もたくさん来場し、お声をかけてもらえました。来年は、さらに喜んでもらえるイベントにしていきたいですね」と目を輝かせていました。



世界遺産大学

10月3日(土)、日光東照宮400年式年大祭を記念して、世界遺産「日光の社寺」プロモーション委員会主催による、日光世界遺産大学「徳川家康公と江戸文化」が、日光東照宮で開催されました。

断家春風亭小朝氏や東洋文化研究者アレックス・カー氏、下野新聞社綱川栄氏のトークライブが行われ、会場を訪れた400人が日光の社寺の歴史的价值を再確認しました。

また会場では、日光東照宮の雅楽や関白流下小林神獅子舞が披露され、来場者から大きな拍手がありました。

ご主人と訪れていた、生井朝さん(宇都宮市)は、「古民家再生などで活躍されているカーさんのお話が聞きたくて参加しました。なるほど、うなずける話ばかりでした。また、小朝さんの話には大爆笑でした」と話してくれました。

五十里ダム環境放流



9月4日(金)、五十里ダムの環境放流が行われました。

これは男鹿川の河川環境美化の目的で定期的に行われている事業ですが、今回は普段立ち入りが禁止されているダム下部への通路が特別に開放されました。

情報を聞いて集まった人たちは、迫力のある放流の様子を眺めていました。